



港区立中之町幼稚園 12月 園だより

教育目標

- ・げんきな子
- ・かんがえる子
- ・なかよくする子
- ・かんばる子



令和4年11月28日

港区立中之町幼稚園

園長 大橋 美都子

<http://nakanochi-kgminato-kyed.jp/>

絵を描く

園長 大橋 美都子

幼稚園から見える木々が、きれいに紅葉、黄葉してきました。芝生広場にスケートリンクもオープンし、冬の訪れを感じます。

月末に開催の作品展。子どもたちはそれぞれの個性を十分に発揮し、様々な作品ができあがりました。その中のひとつ、「絵を描く」ということについて、赤ちゃんの頃からの発達を振り返ってみたいと思います。

1歳前後、テーブルにこぼしたミルクやヨーグルトを指で触ったり、こすりつけたりしてその感触を楽しみ、動かした痕跡に興味をもちます。これがお絵描きの出発点とされています。1歳半前後になると、クレヨンなどで意思のあるしっかりした線を描くようになります。やがて曲線や円形の線もぐしゃぐしゃと描けるようになっていきます。いわゆる「なぐり描き」です。子どもは「ほら、見て。私がやったんだよ」という自己効力感への共感を求めています。このぐしゃぐしゃ描きやなぐり描きの時期を十分にやって満足した子は絵を描くことが好きになると言われます。やがてお話をするようになり、線や形を指して「ママ」とか「ブーブー」と言うようになります。何を描こうか考えて描くのではなく、描いた後でその象徴的な形から具体的な形を連想して意味づけをしていく時期です。子どものお話を一緒に聞きながらお絵描きを見守ってあげる時間が、自己肯定感を育み、安心する時間となります。そして、次第に何であるかを意識して描くようになり、3～4歳になると記憶力や思考力も発達し、自分の知っていることや経験したことを表現しようとするようになります。形を見ればそれが何なのか見る側が理解できるようになってきます。ただ、脈絡なく絵を並べていく時期であり、まだ大小関係や因果関係、つり合いなどはとれていません。あえて正すようなことはせず、子どもの話をよく聞き、興味をもって質問したり共感したりしてたくさん描きたくなるように促していくことが大切です。そして、5～6歳になり、知的にも情緒的な面も成長すると、周囲との関係や状況を理解し、物への認識をもち、概念も形成されます。描く絵にも上下左右ができ、大きさのバランスもとれていきます。もちろん発達には個人差がありますが、赤ちゃんの頃からどの子もこのような段階で発達してきています。

成長を感じながら、また、一人ひとりの作品の説明文を見てその子の思いやイメージを想像しながら作品展を楽しんでいただければうれしいです。



ピザができたよ。
オープンで焼いてこよう！



ケーキのトッピングには遠足で
集めた秋の宝ものを使いました



宇宙組は、個人作品のほかにグループでの協同製作にも
取り組みました。みんなで相談して作業を進めました

